

【研究紹介：国外学術誌掲載論文から】

## コーチングの哲学： ハンス・レンクの民主的コーチングとは何か？

関根 正美

日本体育大学・体育スポーツ科学系

掲載誌：

Masami Sekine (2018). The Philosophy of Coaching: What is the Democratic Coaching of Hans Lenk?, 國立臺灣體育運動大學學報 (Journal of National Taiwan University of Sport), 第7卷第2期 : 37-50.

doi: 10.3966/2226535X2018060702003

Keywords:

philosophy of coaching, democratic coaching, discussion and dialogue  
コーチング哲学, 民主的コーチング, 議論と対話

論文概要

コーチングの世界には二つの課題があると考えられる。すなわち、一つは体罰や暴力を用いないコーチングがスポーツの世界にとって必要とされていること。二つ目は、競技者のキャリア形成につながるコーチングが求められていることである。本研究では、これら二つの課題解決に有効と考えられる「民主的コーチング」の概念を明らかにし、それが解決する現代スポーツの状況について最後に考察を加えた。カール・アダムによって実践され、ハンス・レンクによって理論化された民主的コーチングは、指導者と選手の関係という教育性、競技力向上という実用性という二つの観点から見て、当初の問題意識に対して有効な方法であると考えられた。一方でレンクが提起した範囲で検討する限り、あらゆるコーチング対象に対して無条件で適用可能ではなかった。スポーツでのパフォーマンスと知的作業は異なる。しかし、議論と対話の能力は両者をともに高めることに貢献する。これは知識の増大に貢献するのではない。問題の発見と解決、そのための思考力育成に貢献する。いわば、民主的コーチングは競技力向上とともに思考力育成のトレーニングの場である点が明らかにされた。